

「すべてのものをすてて、わたしはよみがへる—大手拓次展」を開催

萩原朔太郎と同時代を生き、46歳で早逝するまでに薔薇の詩を含む2400篇あまりの詩を生み出した大手拓次を紹介する企画展を開催します。

1 概要

萩原朔太郎は「あなたの詩をよむのは香水のほひをかぐやうな気もちがする。」と大手拓次の詩を表現しました。本展では、「薔薇の詩人」と呼ばれる大手拓次の香しい世界を紹介しながら、朔太郎との交流を振り返ります。

2 意義・見どころ

大手拓次は、今年生誕135年を迎えます。北原白秋の門下であった拓次は、萩原朔太郎、室生犀星とともに「白秋旗下の三羽鴉」と呼ばれ、朔太郎の詩にも影響を与えました。

拓次は詩人というだけでなく、小林商店（現ライオン株式会社）で、現代でいうコピーライターの先駆けのような仕事をしていました。ライオン株式会社の協力を得て、拓次が関わったとされる商品を実際に展示するほか、彼の詩にちなんだ36本のバラの詩の柱を設置、彼の最期を想起させる病床の再現にも挑戦します。

詩の朗読動画やAR、香りなど、観るだけでなく五感で楽しめるような展示方法にも、ぜひ注目してください。

3 内容

萩原朔太郎が大手拓次の詩を評価している内容の書簡や、拓次生前の詩画集、直筆原稿、ボードレールの訳詩、遺品、詩集（詩集は没後出版）などを展示。拓次が原稿を書いた広告掲載雑誌「赤い鳥」（ライオン株式会社より）など貴重な資料も多数展示します。

展示作品数 約220点

4 公開の日時・場所

- (1) 日時 令和4年5月21日（土）～9月19日（月・祝）まで
9時～17時（入場は16時30分まで）、水曜休館
- (2) 場所 前橋文学館 2階企画展示室（千代田町三丁目12-10）
- (3) 観覧料 一般500円（高校生以下、障害者手帳持参の方と介護者1名は無料）

5 関連イベント

- (1) 8月20日（土）14時 「大手拓次を読む —こえは あさつゆのきえるけはい」
- (2) 7月9日（土）、8月7日（日）各14時 学芸員による展示解説

担 当 文化国際課 文学館
電 話 027-235-8011